

ウメの台木には‘新平太夫’の実生を用いる

1 はじめに

ウメの台木には、従来から共台（ウメの実生）が用いられてきましたが、台木品種によって若木の生育や収量が異なります。ウメの台木に‘新平太夫’実生台を用いることで、‘紅サシ’実生台よりも50%以上の収量の増加が期待できます。

2 台木品種による収量の違い

異なる品種の実生台木に接ぎ木した‘紅サシ’の収量は、‘新平太夫’台の方が‘紅サシ’台より収量が多くなります。樹齢が進むにつれて収量の差が大きくなり、10年生樹（2011年）では‘新平太夫’台の方が55%多くなります。幹周は若木の頃から差がみられ、‘新平太夫’台の方が約20%太くなります（図1）。

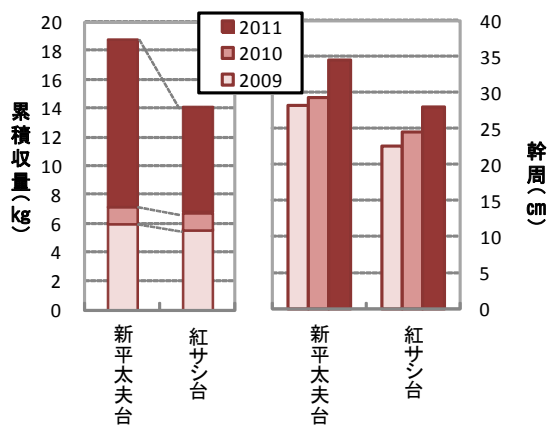


図1 台木品種による収量および幹周の違い
※2002年植栽‘紅サシ’（4樹平均）



写真1 樹姿および根の様子（‘紅サシ’7年生時）
左：‘新平太夫’台、右：‘紅サシ’台

台木品種によって若木の新梢長および根量にも違いがみられます。写真1のように、‘新平太夫’台の方が新梢の伸びが良く、細根量が多いことが分かります。これらの要因が収量の差に影響していると考えられます。

3 優良台木を使った苗木の作り方

ウメ苗木の育成には、台木用の核（種子）を採取してから苗木の出荷まで足掛け3年の期間がかかります（図2）。優良苗木を安定して生産するためには、計画的な準備が必要です。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目 (核の採取)							■	■	■ 土中で保存			
2年目 (台木育成)		■ 播種 (割れた核のみ)	■ *温度管理		■ 定植(株間20cm) ■ 基肥(N 1.2g/株)	■ 追肥(N 0.6g/株)		■ 芽接ぎ				
3年目 (苗木育成)			■ 切接ぎ	■ 防除(アブラムシ類、かいよう病等)			■ 追肥(N 0.6g/株)				■ 苗木掘上げ	

図2 苗木育成スケジュール

* 播種した核は冷蔵または日陰で管理し、3月中旬ごろからハウス内で育苗する。